

ヒアリング調査について

1. 目的

アンケート調査にあわせ、より詳しい状況について把握するため、ヒアリング方式による調査を実施した。

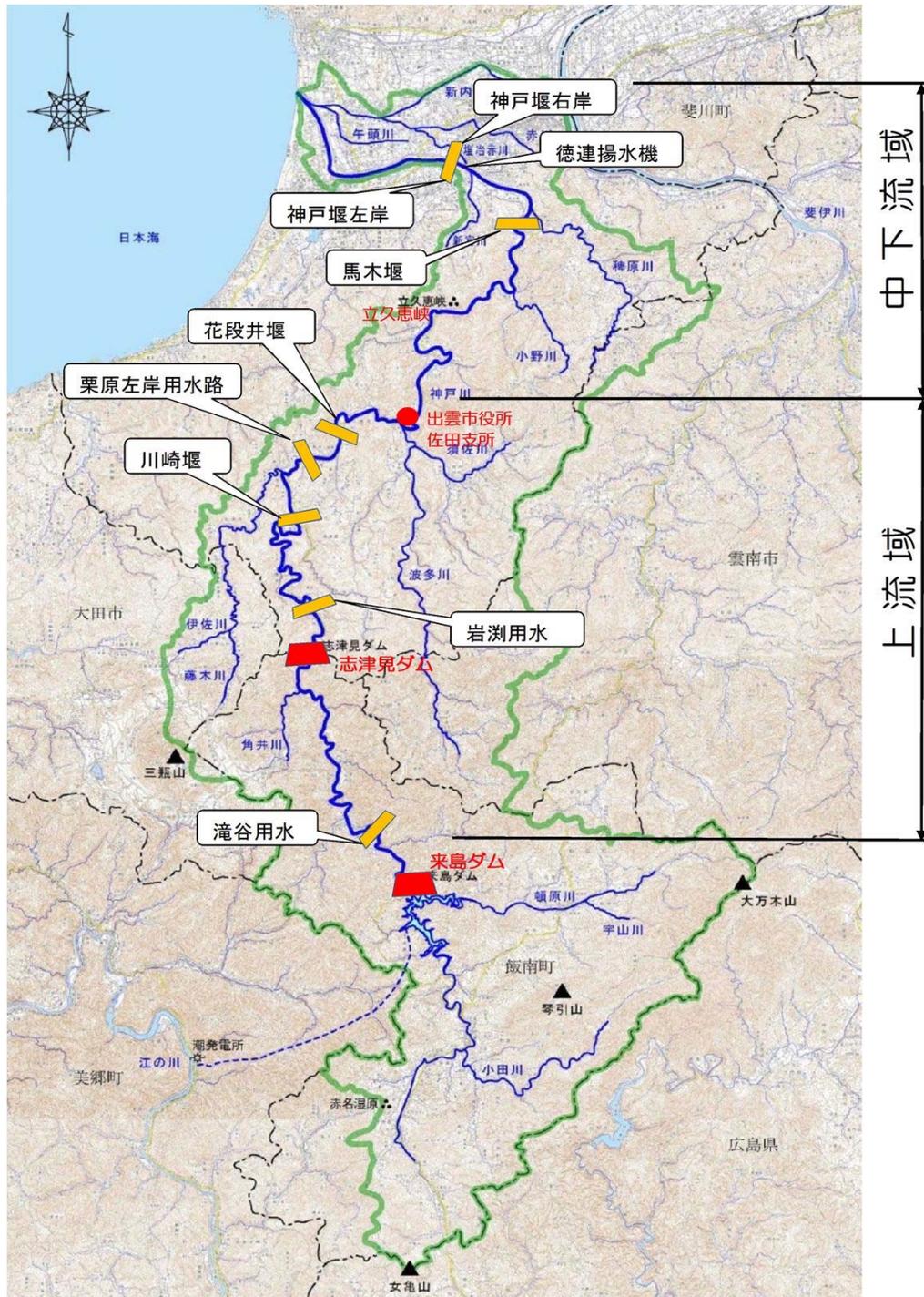
2. ヒアリング期間

平成24年10月23日(火)から10月31日(水)

3. ヒアリング対象者

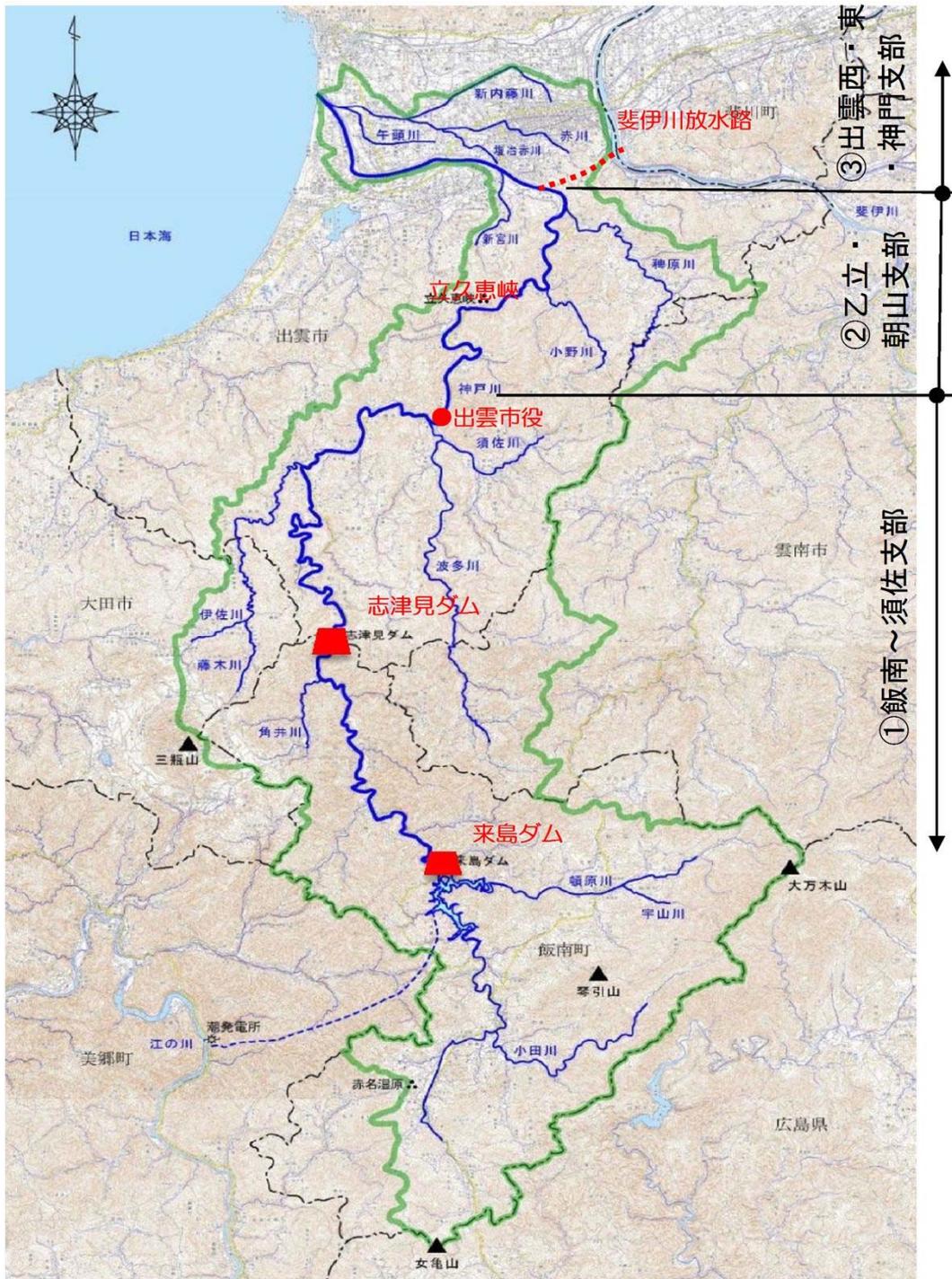
(1)原則10ha以上(上流域は小規模でも位置関係を考慮)の水田にかんがいをおこなっている堰、揚水機の管理者(9名)

位置図



(2)神戸川漁協組合各支部長(飯南支部～神門支部:9名)

位置図



4. ヒアリング調査結果(かんがいの堰、揚水機の管理者)

(共通)

1. 水の量や温度などの変化について	上流域	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸川に流れる水の量は、徐々に少なくなったと感じる。来島ダムの上流域も同様。降雪量や降水量の影響かもしれない。今年は融雪による水量が少ないと感じる。水温については、特に気づいた変化なし。 ・水の量は年々少なくなっている。 ・来島ダムができてから水の量が大きく減った。水温についてはよくわからない。 ・神戸川に流れる水の量は、50年前から比べると少なくなった。水温については、特に気づいた変化なし。 ・水の量が減ったというより、水位が下がった。水温については、特に気づいた変化なし。
	中下流域	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和30年代に比べるとかなり水位が低い。水温については、少し下がったような気もするがよくわからない。 ・今年の水の量は不足した時があった。用水はポンプアップで取水するが、6月17日と7月29日に水位が低いためポンプが自動停止した(取水口水位が低くポンプが空回りすると自動停止する仕組み)。水温については、特に気づいた変化なし。 ・水の量、水温とも変化があったかわからない。 ・来島ダムができる前は、とうとうと堰を越えて流れていた。水もきれいで、量も多かった。水温についてはよくわからない。

(共通)

2. 黒い水について	上流域	<ul style="list-style-type: none"> ・これが「黒い水」だと思って確認したことはない。ただし、神戸川の水は「きたない水」ではある。 ・水が濁っている。緑がかかった黒色。また川底も黒い。泥水ではない。確認の期間は、今年の6月から10月初旬まで。 ・黒い水に見えるのは、川底ではないか。 ・黒いという感じではない。水が澄んでなく、川底が見えにくい。 ・志津見ダム下流で確認した。時期は今年の6月。水が黒かった。
	中下流域	<ul style="list-style-type: none"> ・黒いと言うより濁り。昭和40年代は潜って魚をモリで突けたが今は濁って魚が見えない。 ・黒い水ではなく、濁りである。以前あった透明度は、今は全くない。 ・子供のころに比べれば汚れてきた。黒い水についてはわからない。 ・川底ではなく、水が黒い。来島ダムから流れる。来島ダム上流域の畜産団地が原因ではないかと思っている。

(共通)

3. 川の水のおいについて	上流域	<ul style="list-style-type: none"> ・川の水のおいを感じたことはない。 ・腐敗臭がする。 ・水のおいはわからない。 ・においが気になることはない。 ・水のおいはわからない。
	中下流域	<ul style="list-style-type: none"> ・臭わない。 ・水のおいはわからない。 ・気になるにおいではないがにおいがする。 ・川の水のおいを感じたことはない。

(共通)

4. 新しい繁殖生物の確認について	上流域	<ul style="list-style-type: none"> ・サギが増えたと感じる。来島ダムの上流も下流も、川の中に葦が増えた。また、川の中に木も生えてきた。 ・オオマリコケムシは今年初めて見た。ブラックバス、ヌートリアはいる。 ・サギ、ヌートリアが増えた。川の中に水草が生えてきた。 ・サギ、カモ、ヌートリアが増えた。
	中下流域	<ul style="list-style-type: none"> ・ヌートリアは多い。 ・自分は四手網をしているが、網をあげるとぬるぬるしたものが付いている。出水するとしばらくはそれがない。 ・ナマズが増えた。 ・セイタカアワダチソウ、秋ごろ赤い花が付く植物が多くなった。

農業関係者

5. 農業用水の取水量及びかんがい面積の変化について	上流域	<ul style="list-style-type: none"> ・取水量はあまり変化ない。かんがいの面積は減っている。 ・かんがい面積は変わらない。 ・かんがいの総面積は45年前の約半減。 ・かんがいの面積は若干減っている。
	中下流域	<ul style="list-style-type: none"> ・下流の圃場整備で十間川のかんがい面積は増えたと思う。 ・かんがい面積は変わらない。 ・利水量は減ったと思う。耕作者は減ったが、営農組合を設立して休耕田も耕作するようになった。 ・かんがいの面積は工業団地と農林高校ができた分減っている。

農業関係者

6. 流量が少ないことによる用水取水に支障を生じたこと	上流域	<ul style="list-style-type: none"> ・用水量に不足を生じたことはない。 ・用水路の末端のかんがい地域では、今年は水が不足した。
	中下流域	<ul style="list-style-type: none"> ・水量が多いというのと少ないという両方連絡がある。そば生産組合からは多すぎるとの苦情もある。操作に関する要望はすべて出雲市を通すようにしている。 ・用水量に不足を生じたことはない。

農業関係者

7. 具体的な農作物への影響があったか	上流域	<ul style="list-style-type: none"> ・農作物への影響はないが、風評被害が心配。また、自分たちも食べるコメのためきたない水は困る。 ・わからない。 ・なし。
	中下流域	<ul style="list-style-type: none"> ・わからない。 ・気温、日照時間等の影響による不作はある。 ・なし。

農業関係者

8. その他	上流域	<ul style="list-style-type: none"> ・解禁時にアユを食べたが、ウグイよりまずかった。神戸川の水がきたなくなったことについて、継続して調査してほしい。 ・発電と漁業、農業全てが満足することはない。お互いにがまんしないとイケない。 ・今年は、志津見ダムでアオコが発生したが、水田の中でもアオコが発生した。対策の薬も水田に撒いた。以前は少なかった葦が川の中で増えた。以前は地元で草刈をしていたが、刈った葦が下流に流れるので最近はやめている。 ・八幡原堰をラバー堰に改築してから、魚道以外の堰の上をオーバーフローしなくなった。
	中下流域	<ul style="list-style-type: none"> ・堰があちこち壊れていて水位が上がらず取水しづらい。そのような状況なので魚は遡上し、魚道は不要。角落としの板を外せばサケも遡上する。サケはときどき見る。平成18年の出水時、(新)堤防から川面を見たが、旧堤防なら破堤していたと思われる。 ・浄化槽の排水が流れ込むので窒素などが増え、結果ヨシが増えているのではないかな。 ・50年くらい前は、神戸堰の周りで町内の海水浴を行っていた。深いため、何人が溺れて亡くなったが、そのくらい水はきれいだった。今は、上流からゴミ(ヨシ、竹、ビニール袋)が流れてくる。ゴミがたまるとポンプが詰まるため、今年5月から9月末までは朝晩2回ほど毎日ゴミ取りをした。7月2日～10日は、ポンプを止めてゴミ取りをした。非灌漑期は、経費がかかるため取水しない。 ・来島ダム放水要請を行ったことがある。新神戸堰が建設される頃。正常流量4.5tの根拠がわからない。 ・5～6年前から川の水がきたなくなったと思う。窒素、リン等の濃度が上がったのではないかな。畜産の糞を運搬し、放牧場の肥料として撒いているものが、雨に流れて来島ダムに溜まるのではないかな。神戸川の水の量が問題ではないと思う。きたない水を流してほしくない。原因を究明していただきたい。

5. ヒアリング調査結果(漁業関係者)

(共通)

1. 水の量や温度などの変化について	①飯南～須佐支部	<ul style="list-style-type: none"> ・今年は水量が少なかった。温度の変化はわからない。 ・温度の変化はよくわからない。 ・来島ダムができて少なくなった。(以前は平均的に水があった。)志津見ダムができてさらに少なくなった。去年は雪解け水があったが、今年は少ない。 ・10年くらい前から水量が少ない。
	②乙立・朝山支部	<ul style="list-style-type: none"> ・水量はだんだん少なくなっている。温度の変化はよくわからない。 ・水の量はわからないが、昔の川は水深が深く瀬がさほどなかった。水温については、今年はぬるかったと思う。
	③出雲西・東、神門支部	<ul style="list-style-type: none"> ・昔はもっと水が流れていたような気がする。温度の変化はよくわからない。 ・昔は、水の量が多かった。 ・以前より水が流れないという印象。

(共通)

2. 黒い水について	①飯南～須佐支部	<ul style="list-style-type: none"> ・来島ダム直下はダムができた直後から川底の石がヘドロ状の藻で黒くなった。夏場にこれが水と一緒に流れるので、水が黒く見える。当然だが来島ダム上流は黒くなっていない。 ・石が黒いせいではないか？ 昨年の秋ごろから皆が騒いでいる。 ・黒い水を見たことがある。濁った水で志津見ダムの底の木や草が腐っているからではないか？ 底の石も黒い。特に夏がひどい。雨が降れば水がきれいになる。 ・黒い水を窪田地区で見たことがある。濁った水で川底が見にくい。
	②乙立・朝山支部	<ul style="list-style-type: none"> ・水ではなく、底が黒い。特に葦の根回りがひどい。昭和45年くらいまではまだきれいであったが、昭和50年くらいになると水がぬるぬるするようになった。 ・黒いというのではなく、少しにごった水。石は黒くない。
	③出雲西・東、神門支部	<ul style="list-style-type: none"> ・水も川底も全体が黒くなった印象。 ・水が黒い。来島ダムからヘドロを流すためである。 ・水が汚れてきた。

(共通)

3. 川の水のにおいについて	①飯南～須佐支部	<ul style="list-style-type: none"> ・皆は臭いというが私はわからない。 ・においを感じたことはない。
	②乙立・朝山支部	<ul style="list-style-type: none"> ・どべくさい、かびくさい。 ・においを感じたことはない。
	③出雲西・東、神門支部	<ul style="list-style-type: none"> ・においは感じない。 ・臭くて川に入れないと感じたことはない。

(共通)

4. 新しい繁殖生物の確認について	①飯南～須佐支部	<ul style="list-style-type: none"> ・琵琶湖産アユの放流の影響かニゴイ等外来種は増えた。 ・オオマリコケムシは今年初めて見た。 ・オオマリコケムシは2つのダム湖、川の淀んだところにいる。 ・石に付くクロカワムシが多く苔が繁殖しない。
	②乙立・朝山支部	<ul style="list-style-type: none"> ・ニゴイなどの外来種が増えた。 ・ニゴイが多くなった。
	③出雲西・東、神門支部	<ul style="list-style-type: none"> ・ギギが多くなった。 ・ニゴイが多くなった。ギギ、ブラックバスが多く、刺し網で駆除しなければならない。

(漁業関係者)

5. 漁獲量について	①飯南～須佐支部	<ul style="list-style-type: none">・来島ダムができるまではマスを取っていた。今年のアユはダムの上下流とも例年の1/3位。来島ダムの上下流にかかわらず、放流する魚以外取れなくなった。・来島ダムの上下流とも川が変わって、魚がいなくなった。水量が戻っても放流する魚以外は取れないのではないか。・角井川については、変化はない。角井川支川のイビダニ川はヤマメが良く釣れる。・ウナギは昨年60匹獲ったが今年は取れなかった。・アユは昨年1,000匹獲ったが、こしは10匹程度。こんなに取れないことは初めて。・アユは例年200匹、昨年100匹獲ったが、こしは30～40匹程度。10年前くらいからだんだん減っている。近年水面に魚が見えない。魚が取れなくなっているので、皆獲りに行かない。
	②乙立・朝山支部	<ul style="list-style-type: none">・アユは例年100匹、今年は30～40匹程度。・今年の投網でアユを100kgとった。18災前は今年の1.5倍とれた。
	③出雲西・東、神門支部	<ul style="list-style-type: none">・竿でアユとウナギをとっているが、今年アユがあまりとれなかった。ウナギについての漁獲量は昔とそう変わらない。・アユがとれないということで、アユをとりに行かなくなる。よって、アユについての情報が入らない。

(漁業関係者)

6. その他	①飯南～須佐支部	<ul style="list-style-type: none">・洪水になってもダムで調節するのでフラッシュせず川がきれいにならない。・H18災で小さな淵はなくなり魚が住みにくい。・来島ダムの上下流とも川が変わって、魚がいなくなった。水量が戻っても放流する魚以外は取れないのではないか。・ウグイ・ハヤ等雑魚も20～30年前から徐々に減った。近年はめっきり見なくなった。・来島ダムの上下流の両方を見る自分からすれば、両方とも一緒に河川の水が悪くなった。農業や生活排水が影響しているのではないか。・魚を放流することで漁協は面目を保っている。来島ダムがなくなっても元の川には戻らないと考えている。・川幅が広がった分だけは水の量を増やす必要はあると思う。・H24.6.18日の大雨で、フラッシュするものと思っていたが、ダムが水を貯めたせいでフラッシュせず、河(底)がきれいにならなかった。また、いつもより少なく頭首工で水が取れなくなった。国交省から説明に来られたが、満足した回答をもらえなかった。・八神は志津見ダムができる前から黒い水(石)があった。こらへん(橋波)は、志津見ダムができてから黒い水(石)になった。・葦が繁茂しやすくなった。・H18災で川の淵が埋まって平らになった。葦が繁茂しやすくなった。・天然のアユは支所の淵までしか遡上しない。(八幡原堰のため)・来島の放流は90(江の川)を汚い水、10(神戸川)をきれいな水で流してほしい。・H18災で川の淵が埋まって平らになった。滞筋が変わった。
	②乙立・朝山支部	<ul style="list-style-type: none">・川底が黒くなるのは、豚舎の影響があるのでは？家庭排水も原因の一つ。さらに、平成18年以降さらに汚くなった。志津見ダムで大きく水質が変わった認識はない。平成14年ころから若鮎の里でこのぼりを川に流しているが、臭く汚れる。・メダカ、カジカ、ヨシノボリが減った。木工沈床がなくなったからではないか？・H18災で小さな淵はなくなり、大きな淵はより大きくなった。さらに淵は汚くなった。川底は、1m以上下がった。・雨の降り方が厳しくなり、川が小砂利ばかりになった。・河川改修で安全になったが、(一定の縦断勾配、湾曲がなくなり)水の流れは速くなった。・馬木堰で少なくとも2倍の水量が欲しい。また水そのものをきれいにする必要がある。・ダムの水を攪拌する装置を付けたら効果があるのではないか。・H18災で川の淵が埋まって平らになり、石が少なく砂が増えた。アユの腹に砂が入るようになった。石にアユのえさのコケは結構ついているが石が少ない。志津見ダム上流にあるような良い石があるとよい。・馬木地区の川は、川底が平らである。真ん中を深くして川の中に多く水が流れるところを造らなければいけない。・宍道湖のアオコに比べたら、まだ神戸川のほうがいい。

<p>6. その他</p>	<p>③出雲西・東、神門支部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昔の八神地区の川はきれいで、アユも大きく香りも江の川産と比べて良かった。 ・H18災で川の相が変わった。アユの遡上については、神戸堰をもっと遡上できるようにしてほしい。 ・近年神戸川漁協の組合員になる人の目的は、シジミ採りの人が多い。 ・馬木のつり橋下でアユの産卵場の造成をしている。今年で3年目となる。以前は下流の神戸堰あたりでもアユが産卵していたが、放水路工事で川の形が変わり産卵場とならなくなった。 ・アユの餌は、石に付くコケだが、最近は石の上にドベが付くようになった。乙立発電所の減水区間（八幡原堰から波田川合流点）でも、30年くらい前までは水量が多くアユ漁が出来た。 ・良くない堰は神戸堰。神戸堰の下でサケを漁獲しないといけませんが、遡上してしまう。 ・来島ダム建設、放水路の工事で川が汚れた。何かの手当てを考慮してもらわなければならない。アユの産卵場の造成をしてもらおうとよい。川に丸い石をたくさん入れると効果がある。 ・新古志橋の上流は、河床が砂ばかりでよくない。アユの餌場については、石に「のとり」（・・・緑色のとるとろ）が付いて餌となるコケが付かない。 ・4年前、汚水を流している来島ダム上流域の養豚場へ汚水を流さないよう申し入れを行った。養豚場の堆肥場は、露天であった。来島ダムには、このような物が溜まっている。 ・洪水の後は、川がきれいになる。昔は神戸堰下で落ちアユがたくさん取れたが、今はあまり取れない。水が多く流れていけば、川はきれいになると思う。 ・放水路工事で、川底が泥になった。よくない堰は神戸堰。水深がないため魚が鳥に食べられる。神戸堰は禁漁区であるが、深みがないので魚が下らない。 ・H18災による影響はあまりないと思う。 ・江の川でもアユがとれないと聞く。とれないと皆水の量のせいにする。 ・来島ダム建設時に、当時、学者がこのくらい水を分流しても、神戸川にとって問題ないという話であった。
---------------	--------------------	---